編集後記

◇　発掘という言葉は非常に巾の広いもので、人材を発掘するとか、品物を発掘するというような意味を持つている。辞書には「ほり出すこと」と書いてある。ふつう考古学などで遺跡などを掘ることに使用されるこの言葉のもつ意味は面白い。珍品を掘ることも発掘である。私達が遺跡で土器や石器を掘ることは間違いなく掘るという意味が含まれている。間違つて掘るとそれこそ大へんな批判をうけなければならない。

◇　この特集号は、最近大分県で行われた考古学の発掘記録である。思えば考古学という学問も一昔前に比較するとずいぶん進歩したものである。何千年前の土器だと説明しても、それには放射性炭素の測定による絶対年代のうらずけがあるし、掘り出された人骨の性別や年令ぐらい朝飯前に判読できる学者が沢山ふえた。そうした科学的研究の応用が必要となると、反対に考古学という学問が以前に比較してむずかしくなつた。

◇　最近の発掘には、考古学者の他に、人類学者だの古生物学者だの地質学者だの、日頃関係もない人達が集合して調査を実施するようになつた。しかし医者の中で古代人の解剖を担当する学者は非常に少く日本中でも数えて十人にも満たない。われわれの発掘には、新潟大学医学部の小片保教授と長崎大学医学部内藤芳篤助教授が何時の発掘にも参加してくれる。そして何時の日か九州の縄文人の骨の計測を完成させて、われわれの祖先の状態を明かにしようと話し合う。

◇　昨年の八月大野郡朝地町草木洞穴で、中年の抜歯人骨を掘つて、その骨の麗わしい女性から、九州人の計測にフアイトを燃すようになつたというから骨相というものは大切である。しかし解剖学者にみとめられた骨はあわれである。切り、くだかれたあげくホルマリンにつけられて保存される。

◇　発掘で一番大切なことはチームワークである。本書の原稿分担も多数の執筆者をもつて完成したが、図を作成する人、写真を撮影する人、原稿を書く人、それぞれ協力者をもれなく集合して発掘参加者の全員がそろつて責任と仕事の進行をみつめる。考古学という学問は総合の学問である。助け合いの学問であると考えている。「発掘」という言葉は、ほり出すことではなく、助け合う学問であると附記しておこう。

（賀　川）

昭和三十九年四月二十五日　印刷
昭和三十九年四月三十日　発行
会費　年五〇〇円
編集兼発行人　代表者　渡　辺　澄　夫
印刷人　高　井　久　雄
印刷所　大分市上野　三恵印刷株式会社
雲話②三七七五・五六六五番
大分市駄ノ原　大分大学
学芸学部国史研究室内
発行所　大分県地方史研究会
（振替下関五二九四番）